

3 各事務室報告

3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、事務分掌内規に基づき教育・研究計画書、自己点検・評価、4 図書館運営の調整、図書や雑誌等の調達・受入・整理・登録・除籍、刊行物発行、図書館システム管理・運用、図書目録、統計調査、委員会等の会議運営、業務委託・電子資料等の契約、予算の要求・経理・決算、そのほかの庶務等を分掌する。理事会・学部長会等審議案件の上程、調達依頼等の学内手続き、学外関連団体との渉外業務等も担当している。

特色あるコレクションとして西江雅之文庫、江波戸昭コレクションの整理を 2017 年度に引き続き行った。予算の逼迫から学内公募による高額資料の購入は 2018 年度も行わなかった。刊行物の発行としては、「中村拓文庫西洋古版地図目録」の刊行を記念して、中央図書館ギャラリーで中村拓文庫の古地図展を開催した。このほか、図書館が所蔵する広開土王碑の拓本の写真版と研究成果を「明治大学図書館所蔵 高句麗広開土王碑拓本」が吉村武彦本学名誉教授を中心とする研究者たちによって刊行された。

また、翌年の消費税率変更に伴う図書館全体に関係する料金設定変更の準備や 2020 年度に予定されている CAT2020 への移行準備として情報収集のための研修にも参加した。

当事務室では、2009 年度から明治大学東京国際マンガミュージアム（仮称）設置計画に関する事務、その先行施設として米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館の運営、マンガ図書館運営委員会の事務局を兼務している。2016 年度から学長が構想するラテンアメリカ・プロジェクトの一環としてサンパウロ・ジャパンハウス等へのマンガ資料寄贈に係る事務も担っている。加えて、2017 年度に応募し採択された文化庁事業である「メディア芸術連携促進事業連携共同事業」及び 2015 年度から応募し、採択されている文化庁事業である「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」に 2018 年度も応募し、採択された。図書館全体として所要の要員・予算は補充されず、諸般の業務が人員・予算削減の中で遂行されたことを明記する。

(1) 除籍及び廃棄

図書館図書管理規程第 14 条に基づき、資料の除籍作業を毎年定例的に行っている。2018 年度も、例年どおり上期・下期の 2 回に分け実施した。固定資料について、上期は 2018 年 7 月に 8,456 冊、下期は 2019 年 2 月に 6,534 冊をそれぞれ実施し、合計 14,990 冊を除籍した。簿外資料について、上期は 2018 年 7 月に 3,786 冊、下期は 2019 年 2 月に 2,069 冊それぞれ実施し、合計 5,855 冊を除籍した。除籍処理が済んだ資料は、各館に設置されている「あげます本コーナー」に提供し、学生にリサイクル本として活用している。

2010 年度以前は、毎年固定資料 1 万冊を目途に除籍を行っていたが、近年ではこの目標を下回る除籍数が続いていた。そのため除籍の遅れが指摘されていた。しかし、各館の努力により、2018 年度はこの目標を達成することができた。現在、生田保存書庫を含め各館の書庫の狭隘化が非常に大きな問題になっており、計画的かつ有効な除籍計画立案、実施を各部署に強く要請したい。

なお、毎年年度末に上記除籍処理終了後、業務委託にて原簿へ「除籍印」を押印していたが、2018 年度は日程の都合で除籍印の押印作業を実施していない。2019 年度上期除籍資料と合わせて除籍印の押印作業を実施する予定である。

(2) 資産管理の適正化

図書館作成の図書原簿で資産計上する金額と、財務課で把握している図書費執行金額は本来一致するはずであるが、2006・2007 年度にかけて、図書原簿をもとに原簿データの遡及入力を行い、貸借対照表と図書館原簿データベースの金額の比較を行った結果、30 億円以上の差異が生じていた。2007 年度の法定監査の際に、この金額の差異の問題を指摘されたが、いまだに完全な解決に至っていない。

このため、2014 年度より図書館総務事務室のシステム・受入・経理・電子・マンガ図書館の各担当者及び図書館総務事務長をメンバーとして資産管理 MT を編成し、法定監査による指摘事項を中心に、金額の差異の原因説明及びその対処方法について検討してきた。

その結果、2017 年度単年度での図書館と財務課との資産金額についても、2016 年度と同様に原因不明な

差額は0円となった。

(3) 目録・装備業務委託

目録・装備委託業者は2010年度に切り替わり9年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告、業務効率アップ、品質維持向上等について協議している。9年間の継続業務により、スキルが安定・向上し、新刊書だけでなく、各種コレクション整理の戦力ともなっている。しかし委託業者は切り替わる可能性があり、業務を安定させていくためには職員のスキルも高くなければならない。業務委託への依存度が増す中、人材育成の課題が残る。

(4) 特色あるコレクションについて

●西江雅之文庫

2015年度、文化人類学者の故西江雅之氏旧蔵書(約7,500冊)が寄贈され「西江雅之文庫」(和泉図書館収蔵)として整理を開始した。2018年度は中国語図書582冊・洋図書863冊の整理・装備作業を行った。2019年4月1日時点での未整理冊数は和図書約200冊・洋図書約4,300冊であり、2019年度も引き続き整理予定である。

●江波戸昭コレクション

2007年度、故江波戸昭名誉教授(元商学部教授)旧蔵書が寄贈され、その中から民族音楽に関連する図書(約5,000冊)、パンフレット(約1,000冊)、音源・映像資料等(約30,000点)を「江波戸昭コレクション」(和泉図書館収蔵)として受け入れた。

2018年度は和図書777冊・洋図書1,056冊・和雑誌94タイトル515冊・洋雑誌19タイトル76冊の整理・装備作業を行った。2019年4月1日時点での未整理冊数は和図書約230冊・洋図書約200冊であり、2019年度に整理終了予定である。

また、和泉図書館事務室の協力を得て、音源・映像資料(CD、DVD、レコード、カセットテープ、ビデオテープ等)の整理を開始した。2019年度も引き続き整理予定である。

●殺カビ処理

西江雅之文庫、江波戸昭コレクションともに、受贈前の保存環境により資料の多くにカビが付着しており、利用者の健康被害や他の蔵書に対する影響が懸念された。そのため、2018年4月に殺カビ処理(専用処理施設でのガス滅菌)を行った。この処理に関しては、公益財団法人田嶋記念大学図書館振興財団より助成金を受けた。

(5) 図書受入・検収業務

電子ブックの積極的購入推進の影響もあり、冊子の受入数は減少傾向にある。会計監査・内部監査で指摘があった業務フローの改善は、現行可能な範囲で全て適用し、順調に機能している。

(6) 雑誌整理・受入業務

冊子体から電子媒体への移行や、インターネット公開されているものの受入中止などに伴い、雑誌受入数は減少傾向にある。

NII登録所蔵一括更新(本年度は和雑誌)ほかの業務委託によるデータ整備も順調に実施している。

(7) システム関連業務

図書館の基幹システムのリプレイスを実施し、2018年8月17日より富士通製iLiswave-J V3がスタートした。今回のシステムリプレイスでは、業務システムの大部分の仕組みや操作性を維持したまま、業務の継続性が失われないようにすることが重視されたため、業務機能ではあまり変化を感じさせないものとなった。一方で、設計が大きく変わったOPACでは、外観に加え検索や各種サービス利用の際の画面遷移、操作フローなど

も大きく見直された。図書館システムで独自開発・カスタマイズを施していた機能などについては、将来の継続性やメンテナンス性、セキュリティなどを考慮し製品パッケージ標準へ切り替えたり、廃止するなどしてサービスの見直しも実施した。

リプレイス直後は、OS のアーキテクチャの変更に伴うパスワード暗号化ロジックの不整合などにより、オンラインサービスの認証不具合など発生し、一部利用者はポータルサービスへログインができない状態になる障害が発生し、パスワードの再初期化などして対応する事態となった。また、自動貸出機においては長時間利用が無いときに大学の上位ネットワークのセキュリティポリシーによってネットワーク接続が切断されることによって動作不安定になる障害が発生したため、一部ルールの変更を依頼するようなこともあった。

OPAC については、まだ見直しの余地がありそうではあるが、閲覧業務を含め受入・整理・装備などで障害やデータの不整合は無く、また新システム稼働後もシステム停止を必要とするような障害は起きておらず、概ね安定稼働しているといえる。今後は、NII を中心に検討されている CAT2020 仕様変更へのシステム対応が大きな課題となるが、iLiswave-J V3 では、製品として仕様を追うことが謳われていることと、CAT2020 仕様自体が既存仕様への互換性がある程度確保されるようであるので準備は進められそうである。

3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、創立 120 周年記念事業の一環として建設され、2001 年 3 月 16 日に開館した。街と人の記憶に融合するよう設計され、美しい内観と充実した設備を持ち、2002 年日本図書館協会建築賞を受賞した。17 年経った今でもシンプルとモダンをコンセプトで装備された内装を保ち、アクセスしやすい都市型図書館として公開し、社会的責任を果たしている。

業務体制は、専任職員 8 名、短期嘱託等 4 名、業務委託スタッフ 28 名で運営され、センター館の機能を担っている中央図書館は、他の図書館事務室と連携して蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充を推進した。

2019 年度中に、開館以来延べ入館者が 1,500 万人に達する見込みである。

(1) 開館日数・入館者数・各種ガイダンス等

2018 年度の開館日数は、334 日（2017 年度 336 日）開館した。リバティタワーが入構制限となる入試期間中（2/4～2/19）は入館口を変更して 8 時半から 19 時まで開館した。入館者数は 516,128 人（2017 年度 554,752 人）で、一日約 1,600 人の入館者となった。貸出冊数は、144,018 冊（2017 年度 161,863 冊）だった。学生数が最も多く、地の利が良い場所で、社会に広く公開しているため、明治大学の 4 図書館の中で最も開館時間が長くなっている。

ガイダンスは前年度とほぼ同様で実施した。法務研究科新入生ガイダンス、大学院新入生オリエンテーション、文学部 3 年次ガイダンス、大学院留学生オリエンテーション、新任教員ガイダンス、専門職大学院秋季入学（留学生）ガイダンス、政経研究科講座、図書館ゼミツアー（総参加者数 749 人（2017 年度 725 人））、各種の情報検索講習会、ガバナンス研究科・グローバルビジネス研究科図書館ツアー、司書講習ガイダンス、オープンキャンパス図書館ツアー等を実施し、「書評の書き方講座」、「海外論文の探し方講座」も開催した。また、図書館実習生（他大学）を受託指導した。

(2) 施設・設備の保守・管理

2018 年度夏期にはシステムリプレイスを行い、全館の WebOPAC の環境が新しくなった。また、大学法人部署主導により、1 階全フロア及び L 階段を省エネ照明器具 LED 照明に更新され、インフォメーションボード撤去及び更新工事、2 年計画で実施されたトイレのウォシュレット設置工事が完了した。その他、リフレッシュコーナー内自動販売機の 4 台中 2 台を紙コップ式からペットボトルへ交換し、サービスの向上となった。

開館 17 年となり、各所で老朽化による機器の修繕が発生し、点検時の部品交換及び機器の入替等を実施しているが、大きな修繕として、書庫 B2 下層スプリンクラー修理工事、数年計画で実施するマイクロ搬送機及びマイクロ自動搬送システムの更新工事、館内放送設備の更新工事を実施した。

環境整備として、害虫生息点検、害虫防除施工として薬剤噴霧害虫駆除やフェロモントラップを実施した。

(3) 中央図書館ギャラリー展示

中央図書館事務室 5 名、図書館総務事務室 2 名のワーキンググループで展示活動を行なった。教員や学内外関係者と連携し、メンバーが企画・渉外、解説・印刷原稿作成、列品、広報を担当し、第 75 回から第 81 回までの 7 回の展示会を開催した。その内 3 回は他部署からの要望に応え、米沢嘉博記念図書館、大学史資料センター、文学部とそれぞれ共同で開催した。

「おきあがりこぼしプロジェクト」、「唐十郎」、「出版社の PR 誌」、「中村拓展」等、例年にない特徴ある展示を開催し、学外からも多くの方が訪れた。

学生に向けて、大学の歴史が学べる公開や、附属機関をアピールするには、当館の存在は大きく、学会等で学外研究者への広報ともなる役割を果たした。

展示タイトルは、p.18「4 主要行事・イベント 中央図書館ギャラリー」参照。

(4) 各種イベント等の開催

利用マナー教育と読書推進活動のため、図書館オリジナルバッグのデザインコンテストを行ない、最多得票のデザインでバッグを作成し学生に提供した（右写真参照）。

第 9 回図書館書評コンテストは、図書館活用奨励と優れた書評を顕彰し読書活動を推進することを目的に開催し、2018 年度は 41 編の応募作品があり、12 作品が受賞した。第 9 回目となり、応募された作品は全体的にレベルが高く、回を経て実力をつけていることが感じられた。2019 年 1 月 30 日に中央図書館多目的ホールで表彰式を行なった。p.5「2.8 書評コンテスト選考部会」参照。



(5) ローライブラリーと法科大学院生・法学研究科院生の利用

ローライブラリーは、法学部資料センターを改組し、法科大学院生専用図書室として 2004 年 4 月 5 日に研究棟地下 1 階に設置され、蔵書数は約 15,000 冊を持ち、法律関係の図書、雑誌、判例集を所蔵している。2018 年度は、中央図書館の開館日数より 4 日間多い 340 日開館した。なお、法学研究科院生も学生証の提示で閲覧の利用ができる。

(6) 国際交流への貢献

次の学部等留学プログラムの図書館利用等を受入れた。主なものとして、大学共同プログラム（ノースイースタン、南カリフォルニア、アジア太平洋、西シドニー）、情報コミュニケーション学部短期学生交流プログラム、Meiji University Law in Japan Program 1・2・アウグスブルグ大学受入プログラム、日本語短期研修プログラム（夏期・冬期）、クールジャパンサマープログラム、韓日訪日団キャンパスツアー等で前年度とほぼ同様の受入れがあった。

(7) 防災関係の取組み

- ・2019 年 1 月から 3 月にかけて、東日本大震災時の東北地方の図書館被災状況写真と地震発生時の対処法ポスターを、書庫連絡通路及びギャラリー前で展示した。
- ・今年度、緊急地震速報受信のための調査・工事が行われ、鳴動テストを 2019 年 5 月の休館日に行う予定である。
- ・毎月 1 回の防災用品（懐中電灯、メガホン等）点検について、引続き職員及び嘱託職員の輪番制で実施した。これにより、研究棟書庫の古い懐中電灯の不具合が発見され、新規購入し交換した。
- ・研究棟書庫内に書庫避難通路誘導となる蓄光テープを貼り、避難経路の一助とした。

3.3 和泉図書館事務室

和泉図書館の運営を中心にして、図書館が機関として行う諸事業に携わっている。なお、貸出カウンター、

資料の配架・配送等，一部の業務は，委託して行っている。

(1) 運営状況

和泉図書館は，文系 6 学部（法，商，政治経済，文，経営，情報コミュニケーション）の 1，2 年生，約 10,000 人の学生を，主たる対象としており，例年，定期試験時期（7 月，1 月）をピークとした利用状況となっている。

今年度，開館時間等に変更はなく，前年度とほぼ同日数の開館となった。和泉図書館は，学園祭の開催，入試の実施に伴う休館日があるため，例年，他図書館に比して開館日数が少ない。

なお，今年度は，学内システム関連作業により 2 日の開館日変更，台風により 5 日の開館時間変更が生じた。

(2) 館内施設・設備関係

現建物の使用開始から 6 年が経過し，徐々に電器製品，什器備品等に劣化が見られている。今年度は，数台のサーバー類を交換し，関係部署と協議のうえ，次年度に一部の照明器具を更新することを決定した。

また，利用状況等を踏まえて，空調，照明の設定時間を変更し，利用環境の向上を図るとともに，防犯カメラの増設（1 台），ホールの移管を行った。

(3) 蔵書関係

開架図書について，汚損本，破損本の抜き出し作業を前年度からの継続で行い，一巡させ，資料の電子化に伴う雑誌の配架見直し，面陳図書の入れ替えを行った。

また，日本近代文学文庫について，バーコード未対応資料（貴重書）へのコード発行及びスリッ挟み込み作業を完了し，江波戸コレクションについて，図書館総務事務室の目録担当者とともに音楽関係資料の整理指針を決定し，作業に着手した。

(4) 教育・研究支援関係

例年どおり，新任教員説明会，新学期の利用案内，図書館ガイダンス，講座などを行い，図書館活用法（授業科目）は，春学期，秋学期各 2 コマの合計 4 コマの実施に当たった。主に 1，2 年生の学生を対象としていることから，各取り組みは，初年次教育の一環であることを念頭に置いて行っている。

(5) 企画展示，読書推進関係

学生の学習活動，大学生活に資するものとするを旨として，ギャラリー，特設コーナーなどの運用，おすすめ本の設置を行っている。留学，就職等の説明会に合わせて関連図書を集めるなど，より多くの学生を引き付けることを目指した。

(6) 地域・社会連携関係

協定を結んでいる杉並区図書館ネットワークでは，企画事業として，10 月 6 日（土）に講演会『病院のヒーリング・アートーアートによる癒しの環境を考えるー』（講師：山野雅之女子美術大学教授，会場：杉並区立中央図書館）を開催し，会議では，協定事業のあり方について，協議を行った。

また，中学生の職場体験では，世田谷区立梅丘中学校，附属中野学園中学校から，生徒を受け入れた。

(7) その他

6 件のメディア取材に対応した。見学については，年間を通じて希望が寄せられることから，受付，対応にかかる業務を定型化した。

3.4 生田図書館事務室

生田図書館は，緑豊かな多摩丘陵高台にある生田キャンパスの東側中央に位置する。同キャンパスでは，理

工学部・農学部授業・実験等の教育・研究展開により、学生が長時間キャンパスに滞在しており、その教育・研究支援並びに終日滞在型キャンパスライフスタイルの快適性・利便性支援の一翼を担うのが生田図書館である。よって、明治大学図書館4館の中で最も開館日数が多くなっている。生田キャンパスにおける図書館の来歴は次のとおりである。

1951年3月、旧陸軍登戸研究所本部の木造平屋建ての一室を転用した「農学部図書室」（翌年、図書館「生田分室」に改称）に始まる。1965年3月、工学部の聖橋校舎から生田への移転に伴い、学生・教職員等の規模が拡大された。

1970年4月に「明治大学図書館生田分館」として構内の現在地に独立した一棟の建物で開館し、1988年4月の増改築竣工を機に「明治大学生田図書館」と名称変更し、現在の建物外観となる。1995年には図書館南側隣接面（農学部創立50周年記念庭園）地下に、明治大学の現4図書館共通の図書・資料の保存庫である「生田保存書庫」（地下2層）が建設されている。その後、1999年には、阪神・淡路大震災後、数年に亘り実施された全キャンパス建物の耐震検査により、構造補強（耐震壁）工事を実施した。

この様な歴史ある生田図書館は建築後49年が経ち、施設の老朽化が進んでいる。生田キャンパスでは、生田キャンパスグランドデザイン専門部会において、生田新図書館を合わせた共用教育棟として、第二中央校舎（仮称）を建設することを計画し、検討が進められている。

（1）施設工事・環境整備

地下2階B2書庫設置電動集密書架のうち、設置から30年が経過したものの一部について、電気制御部品の更新工事を実施した。今後も持続的な安全稼働のため、必要なものについて引き続き当更新作業を進める予定である。

また、図書館全館の電動集密書架スポット点検の一環として、生田図書館は地下1階保存書庫の書架点検を実施した。

その他、大学法人部署主導により、館内エレベーターの更新工事が実施された。

（2）展示ギャラリーの運用

2018年度は10件（学部・研究科等企画6件、図書館企画2件、他2件）の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の成果作品発表、教員・研究室の研究成果発表、博物館企画展示等。詳細はp.19「4 主要行事・イベント 生田図書館ギャラリー「Gallery ZERO」」を参照。

（3）ガイダンス及び図書館リテラシー教育の充実

4月2日から4月7日まで行われた理工学部、農学部の新入生指導週間行事日程の中で、理工学部2回、農学部1回の新入生図書館利用ガイダンスを実施し、4月6日には新任教員図書館利用ガイダンスを実施した。新入生歓迎行事の一環として、4月5日～25日まで館内で行ったスタンプラリーには計151名が参加した。

次に年間を通じてのリテラシー教育活動として、22回のゼミガイダンス（含・グループガイダンス、出前講義）に計272名が参加した。

なお、2018年度も農学部からの依頼により、食料環境政策学科の初年次教育科目「基礎ゼミ」（受講者218名）、及び農学科の「農学基礎実験」（受講者74名）にそれぞれ図書館職員4名を派遣し、「図書館利用法と新聞記事検索演習」、「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」の2コマ計8回の出張講義を行った。

また、外部講師を招いて「SciFinder」「Web of Science」「Scopus」の講習会を行い、122名の参加があった。

さらに生田就職キャリア支援事務室と連携し、「就活データベース講習会」を1月29日～31日及び3月12日～13日に実施し、198名の参加を得た。

（4）学習用図書選書

生田図書館運営の柱である「読書支援」「利用者目線」を反映させた選書を行った。

新聞書評欄や書店・出版社のホームページ、日々の話題等から情報を収集し、話題作はもれなく購入した。

(5) 特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し、利用者に読書に親しんでもらう機会とした。2018 年度は以下の 8 企画を実施した。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 食と健康 | 4/2(月)～5/10(木) |
| 2 Let's take a trip! | 5/11(金)～6/14(木) |
| 3 ファッションって何だろう? | 6/15(金)～7/19(木) |
| 4 涼しく触れ合う日本の自然 | 7/20(金)～9/30(日) |
| 5 愛すべき漫画家たち! | 10/1(月)～11/8(木) |
| 6 「働くこと」、そして就活 | 11/9(金)～12/13(木) |
| 7 スポーツ観戦のための新たなメガネたち! | 12/14(金)～1/30(水) |
| 8 恒例スタッフおすすめ本 | 1/31(木)～3/31(日) |

(6) 読書のススメ(話題の本)コーナーの企画

新聞見出しに頻出する記事や web での話題から生田図書館の蔵書をピックアップし、学生の読書へのきっかけを提供した。2018 年度は以下の 16 企画を実施した。

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 LGBTs | 4.20 ～ |
| 2 海賊版 | 5.11 ～ |
| 3 日本人宇宙飛行士帰還 | 6.1 ～ |
| 4 国民栄誉賞 | 6.22 ～ |
| 5 世界遺産 | 7.13 ～ |
| 6 昆虫 | 8.3 ～ |
| 7 ボランティア | 8.21 ～ |
| 8 防災 | 9.21 ～ |
| 9 光の画家フェルメール | 10.12 ～ |
| 10 築地豊洲市場移転 | 10.31 ～ |
| 11 いわさきちひろ生誕 100 年 | 11.22 ～ |
| 12 平成を振り返る | 12.14 ～ |
| 13 メゾン・エ・オブジェ | 1.11 ～ |
| 14 日本の領土問題 | 2.1 ～ |
| 15 統計 | 2.22 ～ |
| 16 BREXIT | 3.15 ～ |

(7) 川崎市図書館との相互協力

2014 年 1 月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで始まった多摩区 3 大学図書館(明治, 専修, 日本女子大学)・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議は, 2018 年度は以下の 2 回が開催され, 各図書館の近況ならびに地域連携の現状が披露された。

7 月 27 日(金) 会場: 日本女子大学西生田図書館

3 月 6 日(水) 会場: 川崎市立多摩図書館

2018 年度も多摩区広報などへのギャラリー ZERO 展示のお知らせ掲載や多摩図書館から川崎市民への積極的な広報もあり, 生田図書館の地域連携は成果を伴いながら定着してきている。図書館を利用する川崎市民が, ギャラリー見学やココスパへ参加することも珍しくない。2014 年度からの統計推移は以下のとおりである。

2014 年度 2015 年度 2016 年度 2017 年度 2018 年度

LC 作成数	47 名	67 名	49 名	45 名	78 名
入館者数	4,748 名	5,240 名	5,032 名	3,375 名	3,781 名
貸出冊数	2,506 冊	2,534 冊	2,147 冊	2,193 冊	2,115 冊

3.5 中野図書館報告

2018 年度、中野図書館は開館から 6 年目を迎えた。中野キャンパスの 2 学部、研究科 (専攻) の構成は 2017 年度と同じで、学生数は 3,151 名 (2017 年度は 3,096 名) であった。先端数理科学研究科などの学生数が増加した。入館者数は昨年度に引き続き減少しているが、これは他キャンパスにもみられる傾向である。中野図書館は限られた面積ではあるが、キャンパス内で静かに落ち着いて学習できる場所として定着している。

(1) 開館日数・入館者数・貸出冊数など

2018 年度の開館日数は 337 日 (2017 年度は 340 日) であった。夏期休暇中の日曜日、全学部統一入試の当日および前日の閉館などの影響である。中野キャンパスでは 2017 年度同様、土曜日の休日授業は実施しなかった。

延べ入館者数は 117,621 人 (2017 年度 125,271 人) であった。

貸出冊数は 35,017 冊 (2017 年度は 39,207 冊)、他キャンパスからの配送件数は 9,486 件 (2017 年度は 11,868 件、生田保存書庫分を除く) であった。

(2) 蔵書について

2019 年 3 月 31 日現在の中野図書館蔵書数は 52,788 冊 (簿外図書も含む) である (2017 年度は 49,443 冊)。生田保存書庫への 1,602 冊の移転も実施した。

2018 年度中野図書館学習用図書予算で購入した図書は 3,267 冊 (2017 年度は 2,481 冊) であり、予算額の変動に見合った結果である。先端研の専攻増設に伴う図書購入は 312 冊で、電子ブックの購入もあった。

生田保存書庫への移転は、2014 年度登録の図書を中心に、貸出回数が 2 回以下のものを抽出した。除籍冊数は 982 冊 (簿外を含む、2017 年度は 1,116 冊) であった。

(3) その他

ガイダンスやイベントの報告は別章にあるとおりである。

読書・貸出推進としては引き続き、オススメ本棚にスタッフ (学生、職場体験中学生の場合も若干あり) がテーマを決めて関連図書の展示を通年行い (計 17 回)、新聞書評で紹介された図書をミニ展示するなどした。また、『図書たより』を 29 号から 34 号まで発行した。